

**2016年6月改訂(第6版)

日本標準商品分類番号

*2016年5月改訂

87729

貯法：2～8℃保存(凍結不可)

薬価収載 2009年9月

使用期限：直接の容器、外箱に表示(1年)

販売開始^(注) 2009年9月

アレルギー検査薬

(注)：旧販売名として1968年3月販売開始

診断用皮内エキス 真菌類

処方箋医薬品：注意—医師等の処方箋により使用すること

販売名	承認番号
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アスペルギルス1：10,000	22100AMX01253000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アルテルナリア1：10,000	22100AMX01254000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」カンジダ1：10,000	22100AMX01255000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」クラドスポリウム1：10,000	22100AMX01256000
診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ペニシリウム1：10,000	22100AMX01257000

**【組成・性状】

組成	本剤は各々の真菌培養液から得た凍結乾燥物に50%グリセリン溶液及び緩衝食塩溶液を加えて得た特異的アレルギーを含む溶液で、凍結乾燥重量に対して10,000倍液(1：10,000)である。	
添加物	濃グリセリン0.56%(w/v) フェノール0.50%(w/v) 塩化ナトリウム0.50%(w/v) リン酸二水素カリウム0.04%(w/v) 無水リン酸—水素ナトリウム0.07%(w/v)	
性状	色 無色～淡褐色澄明	
	pH 6.5～7.5	
	浸透圧比 約1(生理食塩液に対する比)	
製法	各々の菌を培養し、培養液をろ過し、ろ液を真空濃縮して透析し、凍結乾燥する。	
**	販売名	原菌名
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アスペルギルス1：10,000	<i>Aspergillus fumigatus</i>
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」アルテルナリア1：10,000	<i>Alternaria alternata</i>
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」カンジダ1：10,000	<i>Candida albicans</i>
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」クラドスポリウム1：10,000	<i>Cladosporium cladosporioides</i>
	診断用アレルギー皮内エキス「トリイ」ペニシリウム1：10,000	<i>Talaromyces luteus</i>

また、皮膚反応テストを実施する約1週間前から投与を中止することが望ましい薬剤があるので注意すること。

(6)反応が陰性を示したときでも、問診等から原因アレルギーとして特に疑われる場合には、日を改めて再検査することが望ましい。

(7)原因アレルギーの特定に際しては、本剤による検査結果のみではなく、問診や特異的IgE抗体検査の結果等も踏まえて総合的に判定すること。

(8)非選択的β遮断薬服用の患者への注意
検査のために本剤が投与されたときに、本剤による反応(アレルギー反応)が強くなる可能性がある。また、本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が通常用量では十分発現しないことがある。

(9)三環系抗うつ薬及びモノアミンオキシダーゼ阻害薬(MAOI)服用の患者への注意

本剤によるアレルギー反応の処置のためにアドレナリンを投与したとき、アドレナリンの効果が増強されることがある。

*2. 副作用

* (1) 重大な副作用

ショック、アナフィラキシー(頻度不明)
ショック、アナフィラキシーを起こすことがあるので、観察を十分に行い、くしゃみ、蕁麻疹、血管浮腫、不快感、口内異常感、喘鳴、耳鳴等の異常があらわれた場合には、直ちに適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

観察を十分に行い、次のような症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過敏症	喘息発作の誘発、眼瞼又は口唇の浮腫、発疹、そう痒等

【効能又は効果】

診断

アレルギー性疾患のアレルギーの確認

【用法及び用量】

診断

通常本品0.02mLを皮内に注射し、15～30分後に発赤径20mm以上または膨疹径9mm以上を陽性と判定する。

*【使用上の注意】

*1. 重要な基本的注意

- * (1) ショック、アナフィラキシー等の発現を予測するため、十分な問診を行うこと。
- * (2) ショック、アナフィラキシー等の発現時に救急処置のとれる準備をしておくこと。
- (3) 投与後患者を安静の状態に保たせ、十分な観察を行うこと。
- * (4) 小児、高齢者及び神経質な患者では、まず原則として乱刺(ブリック)又は切皮(スクラッチ)法を試みってから皮内テストにうつることが望ましい。特に食餌性アレルギーエキス投与に際して注意すること。
- * (5) 正確な皮膚反応テストを行うため、皮膚反応テスト検査前日から抗ヒスタミン薬やメチエータ遊離抑制薬等の投与を中止すること。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、検査に際しては注意すること。

*4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

ヒスタミンは子宮筋収縮作用を有することが知られているため、妊娠中はヒスタミン遊離が考えられる広範な皮膚反応テストは避けること。

*5. 適用上の注意

(1) 投与時

別添販売の皮内反应用対照液(診断用アレルギー皮内エキス対照液「トリイ」)を同時に用いて反応を比較すること。

(2) 判定時

真菌類のエキスは、遅延型反応を認めることがある。

* (3) 投与部位のアレルギー症状が数日持続する場合は、

【包装】

2 mLバイアル

【文献請求先】

鳥居薬品株式会社 お客様相談室

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1

TEL 0120-316-834

FAX 03-3231-6890

